



滋賀院門跡に展示される涅槃図（部分・市川君啓筆）

高さ5m×幅4mにもなる巨大なもの。かつては山上の涅槃会に実際に使用されていた（同院にて常時展示）



発行所
比叡山時報社
jihoh@deluxe.ocn.ne.jp
〒600-0001 大阪府大阪市本町4-2-20
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
年度会費（3000円）中
に会報（比叡山時報）
購読料を含む。

令和4年比叡山から
発信する言葉
大悲
万行
すべての行いは大悲から



ご購読は
こちらから

感染症拡大第六波の中で

出仕する僧侶それぞれに割り当て読誦するものである。

そして十五日は涅槃会、大講堂で涅槃図を掲げ、涅槃講式の法要を勤める。講式の文章は三段に分かれており、釈尊の入滅されたありさまを偲び、釈尊への恋慕渴仰の想いを述べ、法会を勤めて釈尊の加護を祈るという趣旨が記されており、法要ではこれに節を付け朗詠している。

釈尊は遺言で「自灯明、法灯明」と示されたという。釈尊が涅槃の後、は、代わりの誰かに頼るのではなく、自分自身で考え、釈尊の説いた教えを頼りとしなさい。進むべき道を照らす灯りとしなさいと云うものである。

毎年恒例の法要を勤め、その変わらぬ意義を思いながら、コロナ禍の昨今に特別な思いも募ってくる。

これからの一年は是非とも良き年にと「立春大吉祥」を祈り、仏に見えることの出来ない無仏の時代に生まれた我々だけでも、幸いに仏のみ教えに遇うことができた。その教えを自ら学び実践して進んでいかねばならぬ。厳しい、そして不安な日々が続く。しかし先に希望の光を見出し、己を見失うことなくご縁に感謝し、共に歩みを進めたい。

コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が、約二年を経過して現在、日本では第六波の爆発的拡大が現実のものとなっている。このような中、自身を省みると、目の前の都合の悪いことから目を逸らし、時事を自分の都合の良いように受け取り、その本質を誤魔化して同じようなことを繰り返していることに気が付く。

第六波が始まる前、感染者の沈静化が見られた昨年師走、新幹線に乗って上京することがあったが、その車内はほぼ満席であった。感染が拡大していた頃は乗客も少なく、隣を空けて座れたと聞いた。今回は他でもない自分も車内を密にする一因なのに、「今なら大丈夫だろう」という楽観的な気持ちで自分自身を棚に上げ、また、どうしても乗らなければならぬ人も多いはずなのに「随分みんな気持ち緩んできたなあ」と、自分勝手に人を批判している自身に思わず驚き、あきれながらも密を心配し列車を利用した。

さて、お山では立春を迎えるにあたり、二月三日に一年の除災招福を祈る、節分会日数心経読誦の法要が根本中堂で勤められた。これは、一日一日の人々の安心と世の平安を祈り、三百六十五巻の『般若心経』を

比叡山延暦寺が四天王寺で法要厳修

上宮太子講式奉修で報恩の誠捧げる

日本仏法最初の尊王として聖徳太子（574～622）により創建された、和総本山四天王寺大坂市天王寺区・加藤公俊寛氏では、昨年10月18日から本年1月22日にかけて、「聖徳太子千四百年御聖忌大法会」が執り行われている。本号では、大法会期間中に執り行われている金奈山による慶讃法要のうち、去る1月25日に天台宗本山比叡山延暦寺が厳修した、「上宮太子講式」の詳細を報告すると共に、日本仏教の祖と称される聖徳太子の仏法興隆を始めとした偉大な功績を紹介する。



聖徳太子勝鬘経講讃像
太子35歳の頃の御影
写真提供四天王寺

聖徳太子とは

「和」と「仏」で国家を治める
聖徳太子は、名を既戸（生れてすぐにものを言
皇子、豊耳聰聖徳、上宮い、聖の智慧があったと
等と呼ばれ、極聖日皇 伝わる。長じては推古天
子（のちの用明天皇）の皇の摂政として、冠位十
第三子として敏達天皇3（一階）十七歳憲法の制定
年（574年）御生誕を、遺傳使の派遣など、

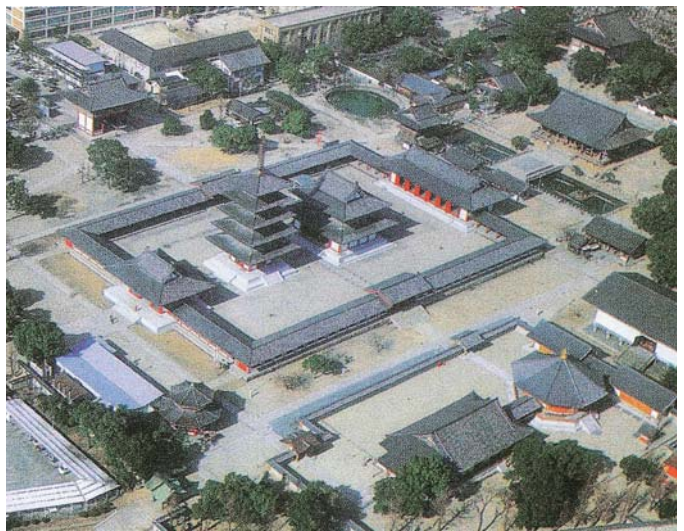
と政治手腕を発揮、また、
『三経義疏』『法華義疏』
・『勝鬘経義疏』・『維
摩経義疏』の撰述及び
「救世菩薩の化身」
摂政としての偉大なる事跡

仏教の公伝は538
られたとされるが、飛
躍的な発展を遂げるには聖
徳太子の功績が大きい
。用明天皇の第一子と
して生まれた太子は父の



聖徳太子孝養像
父用明天皇御病床の傍らにて看病する太
子 写真提供四天王寺

感化を受け幼少より宗教
心に篤く、伝説によると
2歳の2月15日、お釈迦
さまの命日に東の方を
向き合掌し「南無仏」と
唱えたという。
用明天皇2年（58
7）、天皇の崩御を受け、
我が国古来の宗教以外に
外来の宗教であった仏教
を受容するかにして蘇
我氏と物部氏の間で抗争
（「末の乱」が勃発、崇
仏派の蘇我氏が勝利し勢
力を得たこと、推古2
年（594）、仏教を興
隆せよとの詔が出され、
この時、摂政の地位にあ
つた太子は高句麗の学僧
慧慈と百濟の学僧慧聰を
迎えて本格的に仏教を学
ばれた。
太子の学問は仏教のみ
ならず儒教や道家、法家
の思想、天文・曆法・工
範にわたって、摂政として
政治を司った29年間に以
下に挙げた事跡を遺され
たとされる。
① 朝鮮三国との交流を
深め、大陸の文化摂取
のため推古15年（60
7）以来、遣隋使を4
回派遣した。
② 仏教国の象徴として
③ 推古11年（603）
既存の氏族政治の旧弊
矛盾を打ち破る「冠位
十二階」を制定し、我
が国における位階制度
の先鞭をつけた。
④ 翌12年（604）に
は、慈悲愛民の精神と
我が国の根本思想とな
る「和」の精神の実践
を説いた「十七条憲
法」をつくり、為政者
の守るべき道を明示す
ると共に、その後の中
央集権体制を方向付け
た。
⑤ 仏法興隆に尽力し、
四天王寺や法隆寺を建
立自ら仏典を学び『法
華経』、『勝鬘経』の講
讃を行い（606）、
⑥ 『法華経』の注釈
書を執筆された（『三
経義疏』）。
⑦ 農業を奨励し、現在
の奈良・大阪・京都の
各地に灌漑用の池を作
り、また、災害や飢饉
に備えて貯蔵庫を設置
した。
⑧ 社会福祉事業とし
て、施薬院（医薬をつ



四天王寺全景 写真提供四天王寺

我が国初の官寺四天王寺

「和」の精神の実現を目指す

四天王寺は、物部守屋 門、五重塔、金堂、講堂
と蘇我馬子の台戦の折
を一直線に並べ、それを
回廊が囲む形式で、日本
では最も古い建築様式の
一とされる。
天王像を彫られ、もし
この戦いに勝利したら、
四天王を安置する寺院を
建立しこの世の全ての
人々を救済する」と誓願
されて戦いに勝利し、そ
の誓いを果たすため、推古
天皇元年（593）に建
立された我が国初の官寺
である。
伽藍配置は「四天王寺
式伽藍配置」と呼ばれ、
南から北へ向かって中

太子に敬慕の思いを捧ぐ

法要後、延暦寺副執行
またその2カ月後の4月
22日には、大講堂におい
て、太子の御生誕と遺徳
を讃嘆する「上宮太子講
式」を厳修して、今も比
叡山に連綿と聖徳太子へ
の報恩と信仰が繋がれて
いると奉告した。
最後に小寺師は、「伝
教大師一千四百年大遠忌
の年を縁に、聖徳太子
様と二百年を隔てた伝教
大師の敬慕の思いを想像
し、この四天王寺の聖地
でお勤めできましたこと
は、あらためて有り難
い」と感謝の言葉を述べ
た。

御聖忌慶讃大法会法要を勤める 太子殿奥殿に響く上宮太子講式

曇り空に時折秋の陽射し
が差し込む11月25日、
喜のため天台宗務所より
午後2時、金輪の栴荼七
条を身にまとった延暦寺
長、甘井亮淳宗務所長



厳肅な空気のなか聖徳太子へ報恩の誠を捧げる法要が始まった。



太子御本尊に華を捧げる

行った。
法要では、一对の「供
華」がなされたあと、出
仕僧により「唄」と「散
華」が唄えられ、堂内は
荘厳な空気に包まれた。
続いて表白にて叡南探題
は太子を讃嘆し、法要の
主旨を述べられ、その後
「講式節」による声明の
声が始まり、響いた。

太子講式は、四つの式
文で構成され、
第一に法会の願意を
「太子のおかげで我々は
仏の教えに遇うことがで
きたこと、その大師へ
の帰依帰仰の想いを菩薩
の化身として末代の我等
のために仏法を宗された
ことを述べる。
次の第二では、太子の
ご生涯について、釈尊の

太子のお気持ちを弘めたい 和宗総本山四天王寺

第百十三世管長 加藤公俊

聖徳太子千四百年御
聖忌法要では、森川宏
映天台座主親下の通夜
の日にもかわらず、
天台座主御名代叡南探
題大僧正大導師の
もと、延暦寺（山諸大徳
の）ご出仕により、御親修
を賜られましたこと心よ
り御礼申し上げます。



挨拶する加藤管長



一乗院の御前て法要を営み、大師の御心を追慕する延暦寺出仕僧

今御聖忌を機に、次
の100年に向け、あ
らためて太子のお気持
を弘め、太子の教えを
永遠のものとしたい
と決意表明されまし
た。（本年1月8日、年頭
式のご挨拶から）



五重塔を背に聖霊院へと入堂する出仕僧侶



法要が奉修された聖霊院太子殿奥殿